

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考	
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				助手
理学療法 学科	人	人	人	人	人	人	7人	人	26人	20人	
計	人	人	人	人	人	人	7人	人	26人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	情報処理学	15	高橋優基	専任
		物理学	15	加藤巡一	兼任
		生涯学習論	15	日良葉子	専任
		医学英語	15	前田剛伸	専任
		医療倫理学	15	伊藤望美	専任
		人間関係学	15	伊藤望美	専任
		健康科学	15	藤原 聡	兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	30	嘉戸直樹・日良葉子	専任
		解剖学Ⅱ	30	伊藤望美・日良葉子	兼任
		解剖学演習	15	日良葉子	専任
		生理学Ⅰ	30	菅野武史	兼任
		生理学Ⅱ	30	菅野武史	兼任
		生理学演習	15	嘉戸直樹・高橋優基・ 前田剛伸・藤原 聡	専任・兼任
		運動学	30	高橋優基・楠 貴光	専任・兼任
		運動学演習	30	前田剛伸・楠 貴光	専任・兼任
		人間発達学	15	大沼俊博	兼任
		疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	15	岩井重寿
	臨床心理学		15	森本兼司	兼任

		内科学Ⅰ	15	主田英之	兼任	
		内科学Ⅱ	15	主田英之	兼任	
		臨床検査学（画像診断学）	15	岩井重寿・楠 貴光・伊藤望美	専任・兼任	
		公衆衛生学	15	清水宏泰・河野 令・中山 紳	兼任	
		精神医学	15	森本兼司	兼任	
		整形外科Ⅰ	15	前田 章	兼任	
		整形外科Ⅱ	15	前田 章	兼任	
		神経内科学Ⅰ	15	中森友啓・清原克哲・木下晃紀	兼任	
		神経内科学Ⅱ	15	中森友啓・清原克哲・木下晃紀	兼任	
		小児科学	15	石丸庸介・高野美由紀	兼任	
		救急救命医学・予防学	15	藤原 聡・黒部正孝	専任・兼任	
		臨床薬学・栄養学	15	吉野 伸・黒部正孝	専任・兼任	
		保健医療福祉と リハビリテーション の理念	チーム医療論	15	水流啓子・佐々木奈緒・藤野由佳・日良葉子	専任・兼任
	社会福祉学		15	松原宏樹	兼任	
	リハビリテーション概論		15	黒部正孝	専任	
	リハビリテーション医学		15	前田剛伸	専任	
	専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	15	嘉戸直樹	専任
			理学療法研究法	15	高橋優基・前田剛伸	専任
			運動療法学総論	15	前田剛伸	専任
		理学療法管理学	理学療法管理学	15	安井翔一・嘉戸直樹	専任・兼任
理学療法評価学		理学療法評価学	30	嘉戸直樹・伊藤望美	専任	
		理学療法評価演習Ⅰ	15	嘉戸直樹・日良葉子	専任	
		理学療法評価演習Ⅱ	15	高橋優基・前田剛伸	専任	
		理学療法評価演習Ⅲ	15	伊藤望美	専任	
		理学療法評価演習Ⅳ	15	楠 貴光・伊藤望美・日良葉子・高橋優基	専任・兼任	
理学療法治療学		物理療法学	15	高橋優基	専任	
		脳血管障害理学療法学	30	後藤 淳・大沼俊博	兼任	
		脳血管障害理学療法演習	30	嘉戸直樹・日良葉子	専任	

		神経筋疾患理学療法学	30	後藤 淳	兼任
		骨関節疾患理学療法学	30	高橋優基・楠 貴光	専任・兼任
		骨関節疾患理学療法演習	30	高橋優基・黒部正孝・楠 貴光	専任・兼任
		小児疾患理学療法学	15	大沼俊博	兼任
		脊髄疾患理学療法学	15	伊藤望美	専任
		老人理学療法学	15	日良葉子	専任
		内部障害理学療法学	15	藤原 聡	兼任
		義肢装具学	15	伊藤望美	専任
		日常生活活動学	15	前田剛伸	専任
		日常生活活動演習	15	前田剛伸	専任
		総合理学療法演習	30	大沼俊博・三浦雄一郎・渡邊裕文・嘉戸直樹・日良葉子	専任・兼任
	地域理学療法学	生活環境論	15	伊藤望美	専任
		地域理学療法学	30	黒部正孝・藤原 聡	専任・兼任
	臨床実習	見学実習	1		
		評価実習	2		
臨床実習(前後の評価1単位を含む)		19			

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習（理学療法士の役割及び業務の見学）	1年後期	理学療法概論	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
評価実習（評価過程の実践）	2年後期	理学療法評価学	1年後期
		理学療法評価演習Ⅰ	2年前期
		理学療法評価演習Ⅱ	2年前期
		理学療法評価演習Ⅲ	2年前期
		理学療法評価演習Ⅳ	2年後期
臨床実習（評価から治療までの実践と地域ケアシステムの学習）	3年前・後期	運動療法学総論	1年後期
		物理療法学	2年前期
		神経筋疾患理学療法学	2年後期
		脳血管障害理学療法演習	2年後期
		骨関節疾患理学療法演習	2年後期
		小児疾患理学療法学	2年後期
		脊髄疾患理学療法学	2年後期
		老人理学療法学	2年後期
		内部障害理学療法学	2年後期
義肢装具学	2年後期		

		総合理学療法演習	2年後期
		地域理学療法学	2年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会	
委員名（委員長）	嘉戸直樹	
組織の開催頻度	1年に3回	
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の分析	
	・ 自己点検・自己評価の実施	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育改善の研修会の開催企画 ・ 自己点検・評価報告書の作成
自己点検・評価結果の公表	HP で公表 (URL : https://sumire-academy.ac.jp/kobe-reha/public-info/)

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教育課程編成委員会
	委員構成等	校長、学科長、教職員、業界団体・職能団体・地方公共団体の役職員、学会や学術機関等の有識者、企業や関係施設の役職員
	改善の仕組みの実際	必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成（講義の開設や講義内容・方法の改善・工夫等を含む）に活かしている。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価委員会での評価結果を、学生保護者・卒業生代表・企業や関係施設の役職員等からなる学校関係者評価委員会にて報告して意見を聴取し、次年度に反映させるよう努めている。また、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による教育評価を受け、指摘内容を共有して改善に努めている。